

相場：皆さん、こんにちは。相場師朗です。

加藤：こんにちは。アナウンサーの加藤満理子です。

前回に引き続きまして、前川さん、〇橋さん、亀山さんにもご出演いただきます。皆さん、よろしく願いいたします。

全員：よろしく願いします。

加藤：さあ、この動画をご覧の皆さま、第 2 話はいかがでしたでしょうか。実際にトレードを再現していただいたわけですが、前川さんも、〇橋さんもさすがだなというトレードでしたよね。

相場：お上手ですね。お互いに何か。

前川：けん制し合って。

相場：だけれども、おかしいよね。前川さんがもう見切って、損切ったところをちゃんと〇橋さんが取ってやってくれていた。

前川：助かりました。

相場：だから、うまくいっているのですよ。あとは、前川さんもお自分でされたトレードはばっちりうまくいって。

加藤：そうですね。

相場：今もまだ、今、今日が 11 月 30 日。今日がね。テロップが出ると思いますが、今日の時点は 11 月 30 日ですから、今、前川さんはまた利益が、今日、またぐっと伸びたでしょう？

前川：上がって横ばいからの。

相場：さっき秘書に、明日、ステーキを食いに連れていくと宣言していましたよ。

加藤：本当ですか。あれだけの利益が出ていれば、ステーキぐらい。

相場：いいですね。

前川：師匠は「まあ、ステーキ」と言っていました。

加藤：ああ、そう（笑）。

前川：言っていない。

加藤：駄じゃれも師匠譲りというか。

前川：そう。まだ6級なのですけれどもね。

加藤：はい。さあ、それでは前回に続きまして、今度は亀山さんに実際のトレードを再現していただきたいと思います。

相場：亀山モデル。

前川：あの亀山モデル。ついに世に出るわけですね、亀山モデルが。

相場：亀山さんは、ユニ・チャーム。

亀山：はい。

相場：では、ちょっと行きましょうか。

加藤：よろしくお願いします。

亀山：よろしく申し上げます。まずユニ・チャームを選んだ理由は、7月の終わりから、3カ月上昇してきていまして、途中で20日線に1回当たって、再上昇して、この2,650円ぐらいで勢いが止まったかなというふうに見えたので、これは上げ弱るのを見極めて、下げを取って、もう一回上がるところと下げと、この3点を取ろうということで。

相場：そうですね。もうばっちり、われわれと一緒に勉強してきた内容ですね。

今、若干、亀ちゃんがおっしゃったのを解説しますと、大体、ここが底とすると3カ月の上昇をしてきています。大きく上げているときは、20日移動平均線は上を見えています。ところが、その20日移動平均線に並行して上げている5日線というのが、ここで20日線

に1回当たったわけですね。

もう一回、行きますね。20日移動平均線が上を見えています。並行して5日移動平均線が、ここで弱っても20日線までは行っていないわけです。並行して上がって行って、ここで利益確定売りが出て、20日移動平均線に当たった。

これはどういうことかという、しばらく上げてきて、この辺で買った人はみんな、もうかっているわけだから、どこかで売りに出るだろう。でも、まだ強いから、買われるけれども、ここに一度も触ったことがなかったのが触ったということは、戻ったとしても、いずれまたこんなになって、最後は売られるぞという読み方を、もう皆さん、マスターしていただきましたから、ここは最後、弱って下がっていくところを取るという最終プランがありながら、状況によっては買って行く。弱るのを待って、売りを仕込んで。こういう作戦があるわけですね。

先ほど前川さんやO橋さんにやっていただいたのは、比較的、短い期間のトレードで。前川さんは今、どんどん上がっているから、継続中でステーキ屋へ行くわけだけれどもね。亀ちゃんのは、今度はうねり取りを取っていくのに近いような。

亀山：そうですね。ショートの。

相場：ショートの。

亀山：ただ、実際にやったのは、ショートトレードとショットガンと組み合わせたような感じで、発想はうねりですけれども。

相場：そうか、そうか。うねりだったら、私だったら、ここから買いを入れて、上がったら売りを追加して、さらに買いを入れながら、売りを追加してとやって行って。そうか、ここから行くのですもんね。

亀山：はい。

相場：では、ちょっと亀ちゃん、ともかくやってもらいましょうね。実際に亀ちゃんがやったトレードを再現していただく。

亀山：まず、この日は様子を見ました。5日線の下ですけれども、陽線ですので。

相場：はい。なるほど。

前川：あそこは1,000株でいいのですか。

亀山：はい。

前川：1,000 株にしても。

亀山：はい。2,650 円で頭がそろってきたなと思いながら、抜けるかなと思って、次の日、見たら抜けない。

相場：抜けない。

亀山：あっ、抜けたのかな、どうなのかなと思いながら、陰線が出たということで、ここで、小さなトライ届かずかなと思って、2,000 株売りました。

相場：はい。トライ届かずというのは、私が皆さんにこういう型がありますよ。型ですね。こんな形になれば、基本は入りましょう。これはトライ届かずという型だということですね。売りが入った。

亀山：翌日、20 日線に当たったので、3 回、弱っているかなと思ったのですけれども、一応、ここはひょっとしてレンジで戻したら困るので、買いをヘッジで。ここで 1 玉だけ、半分ヘッジで。本当は 3 分の 1 ぐらいにしたかったのですけれども、2 玉しか。

相場：いや、ここはヘッジを入れるべきです。上から下りてきて、移動平均線に陰線で当たるか、陽線で当たった後は上がってしまうのですよね。はい、どうぞ。

亀山：はい。次、コマですけれども、20 日線の上でちょっと困ったなという感じで。すみません。

相場：おっ、出た。これは、今のはいいのではないですか。コマが出て困った。何かトレードの話ではなくなっていますが。次。

亀山：ここですね。これでもう 20 日線。

相場：割ってきた。

亀山：はい。割っていますし、上ヒゲで 5 日線が上がったので、気持ち良く買いヘッジを外して。

相場：切って、売りを追加か。

亀山：はい。売りを。

相場：この場面は、多分、加藤さんも含めて、ここにいる5人全員、同じことをしますね。教科書どおりですね。でも、実際、それがお金を、証券口座が入っているときに、本当にそれができるかどうかなのです。みんな、同じ。ここは入れるよと思うけれども、お金が入っているときに本当に勇気を持って入れられる。これは練習をたくさんしているからね、亀ちゃんね。では、行きましょう。空売り4、買い0。行け。

前川：おお。

相場：よし来た。このとき、亀ちゃん、実際、お金が入っていて気持ち良かったでしょう？

亀山：はい。気持ち良かったですけども、2,500円の節目で止まってしまうのではないかという。

相場：ああ。もうかっているけれども、心配がね。

亀山：ただ、これだけ陰線が出ているところで手仕舞うと、いろいろ株仲間から怒られると思う。

相場：例えば誰から叱られます？

亀山：前川さん（笑）。

前川：何をおっしゃいます。

亀山：「何で切ったんですか」。

相場：温泉合宿で前川さんに叱られている。

加藤：叱られたのですか。

亀山：「切る理由、ありますか」とか。

相場：大体、みんなで温泉で株合宿に行って、もうご飯のとき以外は株の話。朝早くからお風呂に入って株の話。チャートに行きましょう。

亀山：ここで切ろうかと思ったのですけれども、我慢して、次の日に陽線が出たかと。

相場：これは陰線だったら、いいのだけれども、陽線。38万ぐらい利益が出ていて。亀ちゃん、ここでどうしました？

亀山：まだ5日線までかなり下で陽線なので、これは師匠から良い陽線。良い陽線というのですかね。

相場：悪い陽線。

亀山：悪い陽線ですね。陽線ですけれども、前の日よりも安く始まって、安く終わっているということで、継続しました。

相場：そのとおり。

亀山：次がやはり上がって。

相場：嫌だね。

亀山：多分、皆さん、キープされたと思うのですけれども、実は私はここで1回区切ってしまいました。

相場：33万に目がくらんで。いいではないですか。だって、利益が出ているのだから。いいですよ。これで33万を取って。

亀山：はい。いったんここで区切りました。

相場：そうね。これはここの塊にこう並んでいるし、2,500円だし、いいのではないですか。33万2,500円を一応取って、後の出方ですね。20日線が下を見ているし、5日線が下を見ているから、どう戦うのか。さて、次、亀ちゃん、この後。

前川：緊張しますね。

亀山：もう少し下がる可能性もありますけれども、いったんこの辺で 60 日線に近づいてくるので、恐らくこれが上がってきたら、この辺で 1 回上がって、緑の 20 日線まで上がって、落ちるのかなと思って。

相場：もう本当に教科書どおりですね。

亀山：ここで様子を見て。

相場：弱ってきたぞ。

前川：これはあれですね。

亀山：これはもう一回売ろうかなとか思いながら、ちょっとこの日は何もしませんでした。昨日売っておけば良かった。でも、この日はもう 60 日線が近づいていて、もうできないなと思って、この日も結局、何もせずに。

前川：MBA でも悩むのですか。悩むのですね。

亀山：これはもう、はい。これは本当はここで 60 日線の上で陽線だったら、ここで買おうと思ったのですけれども、ちょっと下なので、どうなのかなと思って、この日も様子を見ました。

ここですね。ここでもう返したので、いったん上がるだろうということで、ここで試しに 2,000。

相場：買いを入れてみた。

亀山：もう 5 日線の間には挟まれて出ないなど。ちょっと嫌だなど。このまま落ちるのかなと思ったのですけれども、陽線だったので、大丈夫だろうと。ぼんぼんと言いましたけれども、この日ですね。5 日線を越えたので、1 つにしました。

相場：オーケー、オーケー。下半身ね。おお、抜けてきた。

亀山：ここで 2 を足して。

相場：2を足して。

全員：おお。

亀山：これでいいのですけれども、本当は20日線に当たって落ちてくれることを願っていたので、あれ、20日線を抜けてしまって、ひょっとして上に行ってしまうのかなと思いついて。この日、陰線が出たので、横ばったなということで、ここから売りに変えようかと思っていたのですけれども。

相場：なるほど、なるほど。

亀山：また、すみません。非常に弱気ですけれども、ここも60万円の利益が出たということで、ここで区切ってしまいました。

相場：いいではないですか。

亀山：あと、次の日、実はユニ・チャームの決算があつて。

相場：なるほど。そういうところは触れないほうがいいですね。イレギュラーが起きがちだから。

亀山：はい。

相場：60万になっているのだったらね。

亀山：そうなのです。ちょっと、その不安で迎えるのも嫌なので、ここはここで区切ろうと。

相場：区切ろうと。区切りました。

亀山：思ったら、翌日下がりました、やはりここで売っておけば良かった。

〇橋：でも、区切って良かったですね。

亀山：はい。ここで買いを持っていたら、もっとやばい。

相場：なるほど。

亀山：もうこの後は大統領選もあるので、これはやらずに。

相場：なるほど。

前川：この日が大統領選ですかね。

相場：この日何の日、大統領選。

亀山：はい。実はここでもう一回。

相場：売りを入れた。

亀山：売りました。実は売ったのですけれども、上がってしまって、ここはもうぐしゃぐしゃになってしまったので。確か、ここでヘッジを入れながら、この辺でもう手仕舞って、今、何もポジションを持っていません。

相場：いいと思います。前川さんともいつも話しているのですが、やらないところがある。やるところがある。やってはいけないところで入ると、上がったから買うと下がってしまう。今度は下がったので、買いを手仕舞って空売りを入れると上がってしまう。ぐちゃぐちゃになってしまって、最後、もうどうにでもなれになってしまう。だから、こういうところはやらないほうがいいですね。

特にこの移動平均線が混み合っているところ。移動平均線がこう、どっちかに向いているときというのは、ある程度、方向感があるわけですがけれども、ひとところにたくさん集まっているところというのは、やはりどっちか分からないから、徐々に集まってきているわけだから、これはやらないほうがいいですね。

いいのではないですか。ここで手仕舞ったのはね。前川さんも何か、あんなところで手仕舞いましたもんね。

前川：ええ。

相場：他の何か違う銘柄でね。大事、大事。やらないところと、やるところがある。そこを見分けられないと。

前川：師匠の言葉ですよ。師匠は分からないところが分かるらしいのですよ。これはす

ごいすよね。

相場：だって、分からないのだもん（笑）。

前川：分からないところを分かるのだかと思って、すごく感動して。だって、分からないところが分かったら、そこをやらなければいいという話ですよ。

相場：やらなければいい。そう。でも、やってみて、分からないから分からない。

加藤：亀山さん、ありがとうございます。

相場：ありがとうございます。

加藤：さあ、今日はせっかくお弟子さんの皆さん、3名の方にもお越しいただいておりますので、ここからはフリートークで、ざっくばらんに相場さんのトレード技術とか、やはり講師というのですかね。先生としての教え方の進化とか、そういうものについて、お話をいただければなと思います。

相場：なるほど。何か恥ずかしいな。

加藤：師匠を前に、言いにくいこともおありになるかと思いますが。

前川：師匠は本気度がすごいですよね。本気で取らしてやるぞというのが、昔からそれが欲し……。あっ、違うか（笑）。最近、でも、本当に勝たせてやろうというのが、もうありありですもんね。

加藤：何か以前、すごく怖かったというのを伺ったのですけれども。

前川：そうですよ、昔は、すし屋の見習い職人は見て盗めみたいな感じで……。あれ？ 俺だけ先走ってみんなが話についてこない（笑）。

相場：昔は質問するなど。

亀山：質問してもいいけれども、まず自分がどう考えているのか先に言えと。

相場：質問禁止。仮説を立てて、自分の仮説ができてから来なさい。結構厳しくやって。

加藤：こんなににこやかではなかったのですか。

前川：にこやかだったのですけれども、にこやかに厳しい。にこやかです。

亀山：にこやかなのは、にこやかですね。

相場：あと何個ぐらいですかね。2個ですかね（笑）。

加藤：2個2個で4個かもしれません。

前川：にこにこは。おお。なるほど。

亀山：私が入ったのが、入ったというか、先生に学ぶようになってから1年7カ月ですけれども、何かかなり当時に習ったことと今とで随分と変わりました、当時はペイント練習とか、この相場チャートとかもなかったですし。

〇橋：そうですね。練習方法が、まだわれわれも。リーディングはやっていましたけれども、では、より実践的に練習するにはどうかというところについて、ここ1年ぐらいですかね。

亀山：すごい進化ですよ。

相場：それは、あれなのですよ。自分でできるけれども、人ができるようになるにはどうしたらいいかというのが分からなかった。自分でできることを、何でできないのだろう、みんな。

加藤：どうして分からないのだろうと、相場さん自身も思っていたらっしゃったのですか。

相場：そう。それで自分ができることを一般の方ができるようになるにはどうしたらいいか、いろいろ考えた。それで何か新しい発明。呼び名が、5日線の上に陽線が出たら、どんなに下がるとも買いなさい。それは下半身という。気持ちがね。気持ち……（笑）。

前川：そうですね。昔から言っていたことに名前が付いたりとか、すごい工夫です。

相場：工夫。そう。皆さんができるような。その昔は、10年前は移動平均線なんか使って

いなかった。

加藤：そうなのですか。

相場：自分ではできる。ところが、みんな、分からないから。俺が見えているのをみんなに見せるようにするには、ああ、移動平均線だとやったら、もうばっちり。3人とも、移動平均線を使ってトレードをして。

亀山：1年前は移動平均線も3本。

相場：3本しかなかった。今、5本だもんね。

加藤：増えているわけですね。

相場：増えている。これぐらいが限界だろうけれども。でも、300日線と100日線が出て良かったですね。

○橋：より判断基準が増えましたよね。

相場：あとは何だろうな。空売りを入れたけれども、持っていかれたとき。互い違いとかね。

前川：ああ。互い違い。

相場：あれで助かった人が結構いる。

前川：互い違いは助かりますよね。

相場：ここで空売りをこう入れる。下がると思って空売りを入れる。ところが、上に行ってしまった。そのときに、ああ、どうしようというときに、自分はどうしたかという、下がると思って売りを入れているわけだから、それで上がってしまったのだから、ちょっと多めに買いを入れる。そのまま上がっていけば、上がるほどプラスになる。ただし、そうしているうちに、また弱ってくるから、この売りが生かせるから。売りを入れて、買いを入れて、もう一回、売りを入れて、買いを入れてとやっていくと、いつか下がるから、そのときに買いは利益と共に抜いて、売りだけ取る。こんなのもやったし、あとはトライ届かず。

加藤：トライ届かず。先ほどもトレードを見せていただきましたけれども、出てきましたね。

相場：上がってきて下がって、次の上げが前の高値を抜けないで下げてくると、これはもう売りなのですよ。いろいろ考えましたね。

亀山：そうですね。上がって横ばい。

相場：上がって横ばい、下がって横ばい、捕まって白バイ。

加藤：捕まって白バイ（笑）。もう皆さん、言えるようになって。

相場：いや、もういろいろ考えたね。

亀山：そうですね。最近だと胃袋。

相場：胃袋。

加藤：何かここ最近、私もラジオのほうの番組でも、それを耳にするようになりましたね。

相場：皆さんから見て、20日線がこう上がっているところに、5日線も一緒に上がっているのだけれども、1回、20日線にぶつかりそうになってこう戻ると、胃袋みたいな形。

加藤：ちょっとこういうふうになっていますよね。

相場：そうそう。胃袋。これは買いなのだよ。とか、胃袋。自分は無意識に昔も買っていた。30年前からそれで買っていた。皆さんにお伝えするようになって、皆さん、買わないではないですか。胃袋と付けたら、みんな分かるかな。みんな、胃袋で買うように。いろいろ工夫がね。

加藤：進化しているわけですね。

相場：最近、優しくなったし。質問ですか。それにお答えしましょう。

前川：でも、何か、どこが分からないかが分かっているらっしゃる。

相場：分かってきた。

前川：ですよね。もうピンポイントですもんね。

相場：前は分からなかったのですけれどもね。

〇橋：そうですね。私たちの分からないところが分かるようになってきたので、そこについて、うまく強化するにはどうしたらいいかということをお考えになっている。

相場：何か今、ほとんど東大の先生になっている。

前川：おお。

〇橋：いやいや(笑)。

加藤：でも、相場さんが教え方を工夫されているのと同時に、やはりお弟子さんたちの出している成果というのもやはり大きくなっているのですか。

相場：うん。もう3年後だか、オリンピックがありますから、聖火は。

加藤：ああ、聖火はね(笑)。

相場：だって、この3人はもう、ずっともうかっているのですよ。

加藤：そうですね。実際、見せていただきましたけれども、皆さん、利益出されていて。

相場：うん。でも、本当に練習していますから。熱心にね。あとは、この3人は優秀な人たちだからと思うかもしれませんが、OLさんとか、普通の主婦とかもたくさんいらっしゃるしね。

亀山：皆さん、すごく練習して。

相場：練習して。何かLINEのグループを作って、毎朝「おはようございます」とか「今日は先生に会ったら、皆さん、ごあいさつしましょうね」なんて。何かこう、みんなで。そう。前川ワルキちゃんがヨシキちゃんになりましてね。

加藤：前川さんも進化されて。

相場：前川さんは佳紀（よしき）というの。悪いことをするとワルキになる。ところが、前川さんは最近、もういろいろみんなのために頑張っているからね。前川ワルキから前川ヨシキに進化して。

加藤：進化して、昇格して。

相場：昇格して。

前川：昇格しました（笑）。

加藤：でも、皆さん、こうやって何名かの方に、お弟子さんにもお会いしていますけれども、皆さんが和気あいあいとされていて、やはりお顔も、表情も明るいですよ。やはりそれだけ皆さん、充実している。

前川：だから、勝っているというのと、あと、もう共通の言葉がいっぱいあるので。さっきのユニ・チャームとかを見ても「あ、亀山さん、また亀山モデルでやったんですね」。もう何か共通の言葉がいっぱいありますからね。

亀山：みんな、勝っていて、和気あいあいというときもありますけれども、負けていても、結構びしっと言われたりするの。「何でそんなの、いつまでも持っているんですか」。

相場：確かに。確かに。

亀山：結構、そこで目が覚めるというのがありますね。

加藤：叱咤激励しつつ、みんなでこう高め合っているというお仲間であらっしゃるのですね。

相場：そう。うまくいかなかったときに、後でそのチャートとかを見ると「何でここで買っているの」とかなってくる。だから、分かっていることとできることは違う。

加藤：違うのですね。

相場：それを、多分、3人とも体感しているわけ。

加藤：経験していますね。

相場：経験しているわけ。

加藤：それを糧にしていらっしゃるのですね。

相場：糧にしているわけで。

亀山：あと、やはり相場先生から学んでいて、一番いいなと思うのは、相場先生は自分でトレードされているので、やはり人の痛みとかも「ここは苦しかっただろう」とか言われて、「その気持ち、分かるのですね」とか言ったら「俺もやっていた」とか。苦しい。

前川：もう目が血走って。

相場：うわあ。実際、苦しいもんね。

〇橋：なかなか、それは1人だけだと難しいですよ。自分だけでやっていて、仲間とか、先生にいろいろアドバイスいただいたり、叱咤激励いただくと続くというか。

相場：前川さん、だって、お風呂で叱咤激励。

加藤：お風呂で。

相場：お風呂で叱咤激励。

前川：「何でそんなところから売り始めているんですか」(笑)。

加藤：でも、ずっと見ていたら、気になって気になってしょうがない感じでしたよね。

亀山：もう売買明細を全部、見られていますよ。

相場：それでマイナスになっても、前川さんに200万ぐらい、マイナスをびしっと。人のをぶちっと。「そんなこと駄目じゃない」。ああ。

加藤：まさにいい株仲間ということですね。何かこのまま続くと、延々とお話が続いていきそうなので。

相場：終わらない、終わらない。

加藤：この辺で一度、締めさせていただきたいと思います。

相場：はい、では、よう。違うか。

加藤：いいですか。皆さま、ありがとうございました。

全員：ありがとうございました。

加藤：さあ、次回の第 4 話は、皆さんに相場さんのトレード手法を習得していただくというを実現するために研究を重ねた結果、生み出した新たなプロジェクトをご紹介します。ぜひご期待ください。それでは、相場さん、いつものを。

相場：やりますか。

加藤：皆さんと一緒に、いつものポーズで締めましょう。

相場：では、行きます。はい、せーの。

全員：株は技術だ。